

ぬりえずかん

世田谷に夏を告げる生きものをご紹介します。
よく観察して、色を付けてみてください。

まつ ばら いわ き
細密画：松原 巖樹 先生

1935年東京生まれ。一般社団法人日本理科美術協会名誉会長。
一貫して生物画を描き続ける。図鑑・事典などの生物画ほか、生物を題材とした児童向けの絵本など多方面で活躍している。
松原先生は、身近な自然からのメッセージを細密画として表現する「ネイチャーアート」の講座を、当財団で何年にも渡り実施くださいました。ご興味のある方は、ぜひ、書籍「ネイチャーアート入門」*をご覧ください。

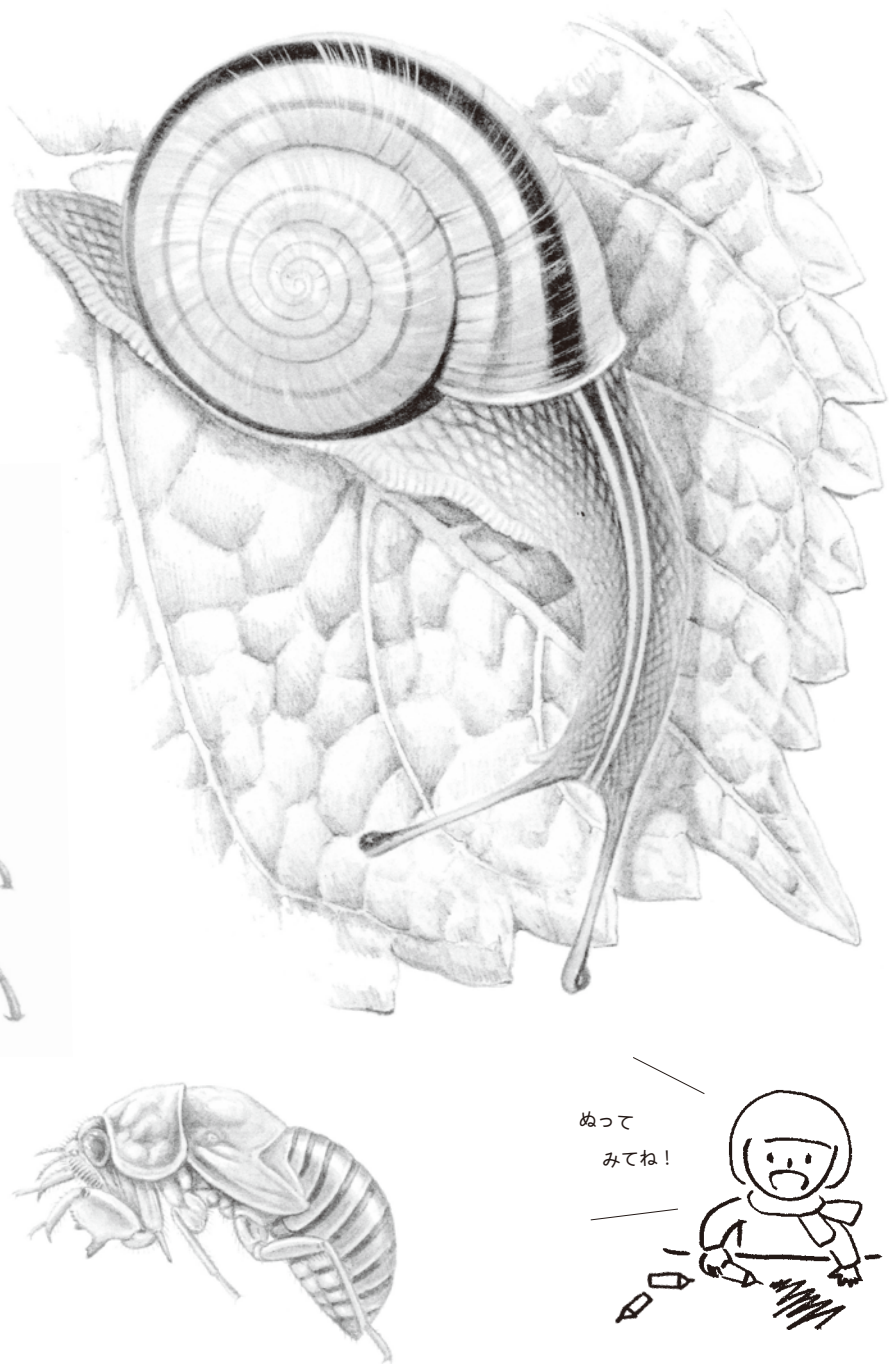
*発行：一般財団法人世田谷トラストまちづくり

ぬりかたのコツ 1

ミスジマイマイは
色も薄く、体が柔らかなので
まず葉っぱを塗って、
カタツムリを浮き上がらせると
綺麗に仕上がります。

ぬりかたのコツ 2

セミは写真を参考に
薄い茶色から、塗り始めます。



アブラゼミ：〈セミ科〉成虫と幼虫



- アブラゼミの名前の由来は、「ジリジリ…」という鳴き声が食材を油で揚げている時の音と似ているから、とか羽が透き通らず油紙のようだから、などといわれています。
- セミは成虫も幼虫も樹液をエサとしており、実は鳴くのはオスだけです。
- 梅雨明け頃ニイニゼミが現れ、夏真っ盛りの頃アブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシが、夏終わり頃にツクツクボウシが現れます。セミの鳴き声は夏の移り変わりが分かる自然のカレンダーでもあります。

ミスジマイマイ：〈オナジマイマイ科〉



- カタツムリは「陸産貝類」と呼ばれ、本来、海に住んでいた生物が海→淡水→陸上へと長い時間をかけて進化してきました。
 - 植物の葉や落枝の分解過程の堆積物などを食べ、雑木林などの土壌づくりに一役買っています。
- ★ 注意…寄生虫がいる場合があるので触れたらしっかり手洗いを！